「ＳＡＴ通信」　ＮＯ３

教職支援センター１
令和７年１０月８日発行

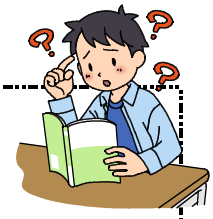
学生のみなさん、こんにちは。
今年の夏も大変な暑さでしたが、元気に楽しく過ごすことができたでしょうか。
さて、後期のＳＡＴ活動が始まりました。ＳＡＴ通信No1で、ＳＡＴファイル活動記録の書き方についてお伝えしましたが、後期のＳＡＴ活動開始にあたり、もう一度「活動の反省」欄の記述について自分のファイルを開いて確認してください。

「活動の反省」（ＳＡＴ通信No1より）
この欄は感想を書くのではなく、どのような「気づき(学び)」があったかを書くようにしましょう。「気づき(学び)」はみなさんの成長の証です。「気づきの量」＝「成長の量」と捉えると、さらに充実した振り返りができるようになるでしょう。
ＳＡＴ活動は PDCA サイクルです。
(P)目標設定 → (D)実践する → (C)振り返り(気づき) → (A)次に活かす

＜前期ＳＡＴ活動の様子＞

６～７月に、教職支援センター職員３人がＳＡＴ活動校全11校を訪問しました。そのときの様子やインタビューの回答を一部ご紹介したいと思います。
教室前方に立って子どもの表情を観察している姿。プリントの丸付けやワークのハンコ押しを手伝っている姿。しゃがんで子ども目線で支援している姿。落ち着きのない子に駆け寄って注意している姿。朝の会前、担任の先生と手短かに打合せをしている姿などがありました。
少し変わった場面では、子どもが自分たちで朝の会を行っている教室で「みなさん。体調はどうですか」と担任疑似体験をしている学生がいました。ＳＡＴ活動の可能性が広がったような気がしました。その学生に将来性を感じたのは私だけでしょうか。
学生のみなさんに「心がけていることは何ですか」とインタビューしたところ、「一人ひとりに合ったアドバイス」「困っている子を見つけて声をかける」「膝を着いて子ども目線で支援」などの声がありました。児童からは「長休みに勉強を教えてくれるから、ＳＡＴの先生がいると頑張れる」。担任の先生からは「ＳＡＴの学生さんが居ると本当に助かる」という声が聴けました。
「子どものために」という気持ちが、みなさんの一生懸命な姿からたくさん伝わってきました。そして、みなさんに向けて見せる子どもたちの笑顔からも「ＳＡＴは子どものためにあるんだなあ」と感じられるものでした。後期も「子どものために」頑張りましょう。

＜考えてみよう！ＳＡＴ活動エピソード＞



＜こんな時どうしますか＞
授業中、困っている子どもがいたら、どうしたらよいと思いますか。
＜アドバイス＞
そばに寄って、顔を見ながら「①どうしたの？」などと声かけをします。声かけで落ち着く子もいます。そうでない子は表情を見逃さないようにしましょう。そして、表情から読み取った内面を想像しながら「②これからどうしようか？」「③何か手伝えることはある？」などと続けてみてください。上手くいかなくても気にする必要はありません。大事なことは「気になる子を放っておかない」ということです。その子が「自分のことを気にかけてくれているんだ」と思えたらよしとしましょう。
でも、しつこくするのは逆効果です。（①～③は、子どもが元気を取り戻す「言葉かけ」）